

第4回瑞浪市道の駅検討委員会

<議事要旨>

日時：平成31年1月22日（火）10：00～

場所：釜戸コミュニティーセンター

出席委員：足立亘、石川亮子、伊藤和美、尾崎浩之、出村嘉史、原田守啓、
水野吉衛、水野幹隆、溝口純司、溝口博敏、森真二、鷺尾賢一郎、渡邊敏博
（五十音順、敬称略）

欠席委員：名張誠

事務局：瑞浪市役所 建設部 都市計画課

■会議概要

（※議事要旨の発言者は、学識経験者の原田会長・出村委員のみ表示）

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議事

（1）前回までの検討内容について

・事務局より資料1の説明を行った。

会 長 基本構想のとりまとめに向けて、これまで様々な検討を行ってきたが、基本構想の背景にある議論の経緯は、基本構想にどのように盛り込まれるのか。前回示された基本構想案では、事業の必要性や将来性等の重要な論点について触れられていたが、今回の資料では、結論に至った経緯が抜けている。

事務局 最終的な基本構想は前回示した基本構想案をもとに、本日の内容を追加し、とりまとめを行う。資料1は前回の基本構想案のダイジェスト版である。

会 長 市民の皆様には、議論の経緯も示しながら基本構想をとりまとめる。P7にてレストランの規模等が具体的に示されているが、基本構想としては誤解を招かないような数字を示す方が良い。

事務局 そのように修正する。

委 員 公民館や保育園等の子供が遊べる場所は、道の駅には設置されないのか。

事務局 住民が主体的に使用する施設については、本日議論いただきたい。また公共施設の集約についても議論いただきたい。

会 長 P6で「公園」というキーワードは示されているが、伝わりづらいのではないのか。

導入機能の内容が伝わるように、示し方を工夫する必要がある。

事務局 今までの基本構想案では主に文章で表現してきたが、本日はゾーニングを踏まえて議論いただき、その結果を基本構想に反映する。

会長 それでは次の議事に移る。

(2) 道の駅開駅に向けたロードマップ（地域参画の検討）について

・事務局より資料 2 の説明を行った。

会長 道の駅に導入予定の商業施設については、地域の方々の生業の場として活用いただき、地域に還元される姿を目指すことをコンセプトとしている。その実現に向けた取り組みについて、3つのステップで説明いただいた。事務局では、担い手となる人々が道の駅整備に先行して実際に起業し、ある程度経験を積んだ上で本格的に道の駅の運営を行うことを想定しているが、どのように思われるか。

委員 市内の起業件数は年 8 件程度であり、瑞浪という場所に地縁があって起業される方がほとんどだろう。今回の場合は、事業プランがある程度できた段階で起業するという事なので、東海エリア等の広い範囲で興味を示す方がいるのではないかと。そのような方々を長い期間にわたって起業相談等で支援する場合、各団体で連携を取りながら、統一したスケジュールで行わなければならない。金融機関等は担当者が 2~3 年で変わってしまい、経済情勢等によっても左右されるため、共通認識を持って支援に取り組まなければ、長期の取組みの場合、途中でうまくいかなるのではないかと。

会長 ビジネスを始める上での一般的なスピード感と比べて、今回の計画はどうか。

委員 きなあは瑞浪ではオープンする 1 年前からテントでプレ直売を行った。出荷経験のない人々を集めて直売所を作ったため、そのような取り組みを行った。道の駅では、現時点で何を売るのかという具体的な内容がないので、何とも言えないが、経験のない人を巻き込むのであれば、練習期間は必要である。何が必要で、何を变えていくのかを判断する上でも練習期間は必要だと思う。

会長 起業を考える人に対して、どのような支援を行っているか。

委員 事業実績等のデータは持っているため、事前のアドバイス等は可能である。資金提供については、経済情勢として起業に対する積極的な支援が、門戸が広く行われている。

会長 地域としてこのような取り組みを支援できるような体制はあるか。

委員 釜戸のまちづくりという観点では、特徴ある場所ではないため、特徴を創出しなければならないと考える。竜吟峡は周辺地域ではなく、外部からの利用者が多い。住民が地域のことをどれだけ知っていて、どれだけ愛着を持っているのかという、釜戸に対する共通認識を醸成していかなければ、外部から人が来たとしても、基礎となる部分が弱く、まちづくりとしてうまく機能しないのでは

ないか。住民にとっての道の駅だけでなく、そこで雇用を生み、まちの活性化を図るという 2 面性があるので、今後のまちづくりと合わせて検討が必要である。

会 長 まちづくりと起業との連携についても検討が必要である。

委 員 ロードマップでは、ステップ 1 ですでに起業の話が出ている。起業勉強会等は地域参画とはかけ離れているように感じる。

会 長 このロードマップは、道の駅の担い手となる方々を早い段階から事業に巻き込み、運営に繋げることを主眼においてある。運営主体となる人々だけでなく、市内で起業する方が現れれば、結果的に市の活性化に繋がる。一方、地域のまちづくりとの関係性は示されていないので、どう組み合わせていくかを考えなければならない。率直な感想を聞かせていただきたい。

委 員 釜戸の良い所というのが思い浮かばない。中津川市では栗きんとんという有名なものがあるが、瑞浪市ではなかなか出てこない。何かを始めるにあたっては、何を売り出すのか考えなくてはならないのではないかと。道の駅といえば地域密着型であり、地域の方との話し合いの場を設ける方が良いのではないかと。

会 長 皆が起業を考える必要はなく、良いお店ができれば、そこで働きたいという人もいるだろう。

委 員 起業勉強会の参加者は、できるだけ地域の人の方がまちづくりとの関わりもあり良いが、地域の人だけでは、集客という部分で弱いように思う。外部からの集客力ある人に参加いただく方が、道の駅としては成功しやすいのではないかと。

会 長 地域の人とノウハウを持つ外部の人との結び付きも必要である。

委 員 やりたい人が集まればそこから話は広がるので、慌てて話を進める必要はない。

会 長 青年会議所内で道の駅に興味を持つ人はいるか。

委 員 青年会議所は年単位で活動しているため、長期ビジョンとなると青年会議所の活動とは別で活動することになる。5 年程度の話であれば、段階的に取り組むこともできるが、メンバーは 40 歳で卒業してしまう。別団体で取り組むのであれば活動に参加できる。もちろん興味を持つ人はいるだろう。

会 長 この基本構想を青年会議所でも周知していただくことは可能か。

委 員 もちろん協力する。

出村委員 3 つのステップに分かれているので取り組みやすいだろう。ただスケジュールを見ると、事業を始めるまでに 5 年ほどかかるので、間延びするおそれがある。一方でステップ 1 の起業勉強会は、ハードルが高いようだ。取り組み方によっては起業セミナーとなり、売上の話が優先されて本来の目的から外れるおそれがある。ただ皆で意見を交換し、意識醸成を行うことは重要である。運営部会は、道の駅の運営を通して常に継続されなければならない。例えば、岐阜市の柳ヶ瀬では「柳ヶ瀬を楽しいまちにする株式会社」という会社を設立し、継続

的にまちづくりに取り組んでいる。起業支援は金融機関で行っても良いが、まちの中にそのような受け皿がある方が面白い。それが今回でいう運営部会にあたるのであれば、運営部会は運営期間を通じて、道の駅だけでなくエリア全体をどうするのかについて考える人々の集まりである必要がある。釜戸や道の駅に立ち寄ることにステータスを感じてもらえる状態をいかに作り上げるかという部分が最も重要であり、それを行うのが運営部会である。一方で、そこでコンテンツを作らなければならない。コンテンツは起業しないとできないので、ステップ3の法人化は2年くらい先を目安にするのが良い。取り組みを始めて2年くらいで、何か面白い動きがあることを感じてもらうことが必要。運営部会はエリアマネジメントを行う集団であり、運営期間を通して継続的に行われる。運営者協議会は試行する役割なので、来年度早々に始めても良いのではないかな。きなあつ瑞浪で行われたプレ直売のように、ある目標を達成するための準備段階として、できることから積極的に行われるべきである。様々な経験からヒントを得て、最終的に起業に繋げて行けば良い。2年後までには何か形になっているのが理想である。実際に活動をして、周囲の信用を作ることが必要。

会 長 まちづくりや市で検討している公共施設等の集約化との関係性の整理を行う上で、その受け皿となり議論を行えるのが運営部会にあたるだろう。

事務局 運営部会が全体をコントロールしながら、各々が起業するというイメージか。

出村委員 運営部会はいずれ全体を包括するビジョンを持つ集団となるかもしれないが、初期段階はやってみようという人をサポートするイメージである。

事務局 運営部会には行政は関与しないのか。

出村委員 運営部会は市民の集まりであり、行政は関与しない方が良い。

事務局 委員の方や地域の方々を中心に、「まちとともに育つ道の駅」というコンセプトのもと、事業を進めていただくという考え方か。

会 長 地域のことや、まちづくりの観点を踏まえた視点が必要であり、委員の方にもぜひ関わっていただきたい。エリアマネジメントの中で様々なビジネスが立ち上がるというのが理想的だということだ。

委 員 釜戸にはすでにまちづくり推進協議会があり、釜戸町全体を視野に様々な活動を行っている。その中のひとつのテーマとして、道の駅が10年後に地域にとってどのようなものになるかについて、協議会にて検討を行えるように位置付け、住民が試行的に取り組み、実際に集客できる手ごたえを感じられれば良い。計画地ではコンサートを開く等、すでに取り組みを始めており、住民の中で道の駅が地域の拠り所となるよう共通認識を持ち、取り組みを積み重ねて行けば、まちとともに育つ道の駅が現実味を帯びてくる。すでに動いている人がいて、組織もあるので、あとは実際にやるかどうかの問題である。

委 員 行政等が関与すると公平性を求められてしまう。やりたいことを自由にやれる

ように見守ることのできる環境を整えることが重要である。色々なことを試す中で、どのようなものがうまく行くのかを見出すための練習期間であるので、幅広く様々な尖った取り組みを試せば良い。コンサートを企画したのは、どのような団体か。

委員長 コンサートは個人の発想から始まり、それに賛同した住民が集まり開催された。その他にも様々な催しはあるが、それらがどのように道の駅と結びつくのか。

委員長 まちづくり組織はすでにあり、町民にも認識されている。まちづくり活動の中で生まれる果実もあるだろう。

出村委員 イベント等を終えた後、その結果について評価をした方が良い。終わって良かったということではなく、より高めていくために何らかの評価を行う必要がある。

会長 ここで議論を整理する。何かをやりたいと思ったときに、3年後5年後というのはあまりにも間延びするという。また、まちづくりやエリアマネジメントは継続的に行う必要があり、その中で企画が生まれ、そのうちのいくつかがビジネスとして成立していくという流れが理想的だという話であった。運営部会は、別の議論とする方が良いという提案であったが、事務局としてはどのように考えるか。これは道の駅を支える運営主体を作るだけでなく、町や市の活性化に繋がる仕組みづくりを行うことでもあり、市民から応援してもらう仕掛けとなるので、良い提案ではないか。

事務局 確かにエリアマネジメントには継続して取り組む必要がある。また法人化までの期間が長いという課題もあるが、起業に向けて行政としてどのような支援ができるのかという点も重要な課題である。道の駅については、現在建設部の所管だが、起業等に関する内容は経済部の所管となるため、本日は商工課の担当も出席している。市としては今後必要な支援を行いたいという思いである。

出村委員 まちづくり協議会の取り組みについて紹介いただけないか。

委員長 釜戸は変わり目を迎えている。まちづくりと道の駅との関わり方が現時点では見えないが、道の駅の取り組みが徐々に明らかになれば、おのずとまちづくりとの関連性も見えてくるだろう。現在は手探り状態ではあるが、積極的に取り組みを行っている。

会長 次回委員会で、実際の取り組み状況について紹介いただきたい。

委員長 文化祭や夏祭り等、地域活性化のためにイベント開催等を行っている。具体的な取り組み内容は次回紹介する。

会長 担い手となる人々が取り組みやすく、また行政や地域で応援していけるような組織を作るということで、大きな方向性は合意いただけたようだ。本日議論した内容は基本構想案に反映いただく。こうした進め方の方向性は基本構想の中で示すのか。

事務局 基本構想はパブリックコメントを行い、市民から意見を募ることを想定している。本日の意見を踏まえながら、庁内で確認を行う。

会長 それでは次の議事に移る。

(3) 施設の配置計画・河川の活用と広場の整備について

・事務局より資料3の説明を行った。

会長 計画地は川沿いの低い土地と、河岸段丘の高い土地となっている。施設を造る上では、地形を生かす計画とするのか、平らにならす計画とするのかという大きな方向性を検討する必要がある。ゾーニングで示されている機能は、これまでの議論で出てきたものである。施設整備費の事例も示されているが、今回の場合、地形を大きく変えるとその分費用がかかるという理解で良いか。

事務局 造成範囲が広いほど、費用がかかる。

会長 本日の論点を事務局より説明いただきたい。

事務局 計画地の造成方針と河川敷の整備方針であり、敷地整備の大きな方向性について議論いただきたい。

会長 事務局はどのように考えているか。

事務局 どの案が良いということではないが、敷地造成には費用がかかる。また川との関わりを生かしたいという思いもあるので、できる限り地形を生かす方向で整備したいと考えている。ただし、洪水等のリスクもあるため、安全性にも十分に配慮しながら、配置を検討したい。

会長 A案では、想定される最大規模の洪水が発生した場合、施設エリアは安全性を確保されるが、駐車場部分は浸水してしまう。B案では、敷地が平らになるので使い勝手は良く、敷地全体の安全性も比較的確保できるが、造成費がかかるということである。また場所としての魅力を高めるという点で、デザインにも考慮する必要がある。

事務局 今回はC案も作成している。災害時には駐車場に避難することも想定されるため、駐車場部分の安全性も確保したい。また道の駅は国道から直接アクセスできる方が良くと考えられるため、駐車場は国道に面して整備したい。道の駅施設の安全性も確保しつつ、川との関わりも実現できる案としてC案を示している。

会長 C案はA案の改良版ということだ。

委員 国道から直接アクセスできるC案の方が良い。

出村委員 国道から直接アクセスする場合、出入りする車が増えると国道に渋滞が発生してしまう。車を県道に引き込むことで、県道が滞留スペースとして機能するため、その点を踏まえるとA案の方が良い。

会長 A案の場合、災害時には駐車場が機能しなくなるおそれがある。交通動線については、C案には課題があるようだ。

委員 きなあた瑞浪は駐車場 109 台だが、滞在型のイベント時には渋滞が国道まで続く。今回の計画地における駐車台数は何台か。

事務局 普通車 40 台、大型車 40 台程度である。駐車台数は前面交通量に応じて導き出されるが、イベント等により駐車できない車であふれる可能性もあるため、公共施設等集約エリアにて予備スペースを確保し、公共施設の駐車場と兼用することも考えている。

会長 人が多く集まる日は、予備スペースも使いながら柔軟に運用するということだ。

委員 国の方でどこまで工事をしていただけるのか。

事務局 道の駅は国と一体型で整備することを目指している。造成の多くの部分は国で負担いただけるのではないかと考えている。

委員 そういうことであれば、今の段階でそれほど費用の面を心配する必要はないのではないか。

事務局 もちろん市も費用を払うので、費用の面も考慮したい。

会長 計画地の地形は美しいので、それを生かす方が良い場所を整備できるように思う。A 案、C 案は地形を生かす案だが、この場でどちらかに決めるのか。

事務局 基本構想としては、地形の生かし方や災害時の安全性等、大きな方向性を示す程度であり、詳細な検討は今後行う。

会長 地形を生かす A 案と C 案をベースとして、技術的な課題も踏まえながら検討を進めるという方向性で合意いただけたようだ。

(4) その他

事務局 次回の委員会では、本日の結果を踏まえて基本構想案のとりまとめをお願いしたい。その後のスケジュールだが、4 月から基本構想案を市のホームページで公表し、1 ヶ月にわたって市民から広く意見を募るパブリックコメントを実施する予定である。集まった市民の意見に対して、審議の必要性が生じた場合は、6 月頃に第 6 回目の委員会の開催をお願いしたい。

一同 異議なし。

会長 次回委員会は基本構想のとりまとめが主な議題であるが、今後の参考として、まちづくり推進協議会の取り組み状況の紹介と、運営・活動に関する地域参画の具体的な方法や、市の支援策についても意見を聞きたい。

事務局 次回委員会は 2 月 20 日(水)10 時から予定している。場所は市役所の 4 階会議室とする。

4. 閉会

以上